

# 業務実績報告書

提出日 2019年12月26日

1. 職名・氏名 教授・北川 太一

2. 学位 学位：博士、専門分野：農学、授与機関：京都大学、授与年月：1994年1月

## 3. 教育活動

<p>(1)講義・演習・実験・実習</p> <p>①農業経済学（2単位、毎年開講）3年生（2005年度～）</p> <p>②内容・ねらい 農業・農村・食料問題を社会経済的なアプローチから講述し、これらの諸問題が地域経済・社会、わたしたちの暮らしと密接に関わっていることへの理解を深める。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ビデオ教材の活用、ゲストスピーカーの招聘（県農業政策担当者、農協・生協関係者など）を行い、現実の問題への理解を促進した。</p>
<p>①農業経営論（2単位、毎年開講：生物資源学部）3年生（2005年度～）</p> <p>②内容・ねらい 農業・農村・食料問題を社会経済的なアプローチから講述したうえで、農業経営に関する基本的な諸問題について理解を深める。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 経済・経営学に初めて接する学生が多いため授業のテンポをやや遅くしていること、農業技術と経済・社会との接点を意識して講義を行っていること、学生の将来も考慮してゲストスピーカーとして県の農業普及指導員を招聘するなどの工夫を行っている。</p>
<p>①演習Ⅰ（4単位、毎年開講）3年生（2006年度～2018年度）</p> <p>②内容・ねらい 農業・食料経済に関する文献の輪読、各自のテーマ設定に基づく調査研究報告を行い、相互に討議することで、課題認識力、発表力、表現・発言力、まとめる力などを養う。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 現地見学（調査）や学外研究会等への参加を実施し、机上の学習に終わらないように工夫した。後期からは自らテーマを設定し、演習レポートの作成や学内ゼミナールコンテストに向けた準備を通して、探索力、文章力、考察力の養成をはかり、卒業論文の作成にスムーズに移行できるようにしている。</p>
<p>①演習Ⅱ（4単位、毎年開講）4年生（2007年度～）</p> <p>②内容・ねらい 農業・食料経済に関する文献の輪読、各自のテーマ設定に基づく調査研究報告を行い、相互に討議することで、課題認識力、発表力、表現・発言力、まとめる力などを養う。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 現地見学（調査）の実施、学外の研究・研修会などに積極的に参画し、机上の学習に終わらないように工夫した。原則として全員が卒業論文には取り組むようにしており、考察力、文章力、課題解決力の養成をはかった。</p>
<p>①非営利組織論（2単位、隔年開講）3年生（2019年度）</p> <p>②内容・ねらい NPOや協同組合など、非営利組織を取り上げて、その組織や事業、経営上の特質を講述する。15回中5回を担当した。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ビデオ教材の活用、ゲストスピーカーの招聘（NPO、中小企業組合、労働者協同組合など）を行い、現実の問題への理解を促進した。</p>

①食料・農業政策（2単位、毎年開講）博士前期課程（2011年度～）[経済・経営学研究科]

②内容・ねらい

日本の食料・農業さらには農村地域に関わる政策の現状と将来に向けての課題について取りあげ、このことを通して、国民経済、地域経済・社会の観点から食料・農業・農村問題を位置づけ、考察していく力を養うことをねらいとしている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ビデオ教材の活用、現地見学（調査）を実施し、現実の問題への理解を促進した。意見交換・討議の場を設けるため、テキストを用いて発表・ゼミ形式を導入した。

①食料・農業政策特論(2単位、毎年開講)博士前期課程（2012年度～）[生物資源学研究科]

②内容・ねらい

地域農業（経営、政策問題）を社会経済的なアプローチから講述し、これらの諸問題が地域経済・社会、わたしたちの暮らしと密接に関わっていることへの理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ビデオ教材の活用、ゲストスピーカーの招聘、現地見学等を実施し現実の問題への理解を促進した。

①食料・農業政策演習（4単位、毎年開講）博士前期課程1～2年生（2011年度～）

②内容・ねらい

農業・食料・農村問題に関する文献の輪読、各自のテーマ設定に基づく調査研究報告を行い、相互に討議することで、課題認識力、発表力、表現・発言力、まとめる力などを養い、修士論文の作成を目指した。そのために、2年次後期も、適宜修論作成に向けてのゼミを実施した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

現地見学（調査）の実施、学外の研究・研修会などに積極的に参画し、机上の学習に終わらないように工夫した。修士論文の取り組みを通して、考察力、文章力、課題解決力の養成を図った。

\*指導院生：2017年度・主ゼミ3名、2018年度・主ゼミ1名、2019年度・副ゼミ1名

①地域産業論（農業）特別演習（2単位、毎年開講）博士後期課程（2011年度～）

②内容・ねらい

農業・食料・農村問題に関する文献の輪読、各自のテーマ設定に基づく調査研究報告を行い、相互に討議することで、専門的な力を養い、博士論文の作成を目指した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

博士学位論文の作成を念頭に置きながら、受講生同士の討議の場を重視した。

\*指導院生：2017年度・副ゼミ1名、2018年度・副ゼミ2名、2019年度・副ゼミ3名

\*博士学位論文審査委員

2017年度・副査1名、2019年度・主査1名（予定）

(2)非常勤講師担当科目

①協同組合論（2単位）鳥取大学・農学部（2017年度）[隔年]

※2018年度より毎年1単位

②内容・ねらい

農産物流通や食料に関わる協同組合、具体的には、農協や生協の組織・事業・経営問題について講述した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ビデオ教材の活用など、現実の問題への理解を促進した。

④本学における業務との関連性

本学で担当している農業経済学の講義で、本講義の内容を採り入れた。隔年開講であり、夏季の集中講義のため、本務への支障はない。

①食料生産管理学特別講義（2単位） 神戸大学農学部（2019年度）

②内容・ねらい

農産物流通や食料に関わる協同組合、具体的には、農協や生協の組織・事業・経営問題について講述した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ビデオ教材の活用など、現実の問題への理解を促進した。

<p>④本学における業務との関連性 本学で担当している農業経済学の講義で、本講義の内容を採り入れた。夏季の集中講義のため、本務への支障はない。</p>
<p>①協同組合論（2単位：7回分）京都大学・農学部（2017年度～）</p> <p>②内容・ねらい 農産物流通や食料に関わる協同組合、具体的には、農協や生協の組織・事業問題について講述した。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ビデオ教材の活用など、現実の問題への理解を促進した。</p> <p>④本学における業務との関連性 本学で担当している農業経済学の講義で、本講義の内容を採り入れた。前期7回の講義であり本務への支障はない。</p>
<p>①生物資源経済学特別講義（2単位）京都大学大学院・農学研究科（2017年度～）</p> <p>②内容・ねらい 協同組合や食料問題に関連する文献を、演習形式で受講生と輪読した。について講述した。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ビデオ教材の活用など、現実の問題への理解を促進した。</p> <p>④本学における業務との関連性 本学で担当している大学院の講義で、本講義の内容を採り入れた。隔週開講であり本務への支障はない。</p>
<p>(3)その他の教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員有志による学内ゼミナールコンテストに参加した（2011年度～2018年度）。</li> <li>・坂井市竹田地区の活性化のための地元交流会や調査にゼミとして参画した（2013年度～）</li> <li>・福井県民生協の協力を得ながら、3年生ゼミ学生の店舗見学、産直交流農家の調査等を行った（2015年度～2018年度）。</li> <li>・夏季休暇を利用して、コープいしかわ等の協力を得て石川県奥能登方面へ3年生のゼミ活動として県外フィールド調査を実施した。（2016年度～2018年度）</li> <li>・ゼミ以外の経済学部や生物資源学部の学生に対しても、行政（農業職）や農業・食料関連団体を希望する学生に対する就職相談に応じた（随時）。</li> </ul>

#### 4. 研究業績

<p>(1)研究業績の公表</p>
<p>①論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「福井県農業の概況 水稲収穫量の動向と米の需給調整」『ふくい地域経済研究』第24号、2017年3月</li> <li>・「福井県農業の概況 集落営農組織の動向」『ふくい地域経済研究』第25号、2017年9月</li> <li>・「福井県農業の概況 水稲収穫量の動向と米の需給調整」『ふくい地域経済研究』第26号、2018年3月</li> <li>・「福井県農業の概況 集落営農組織の動向」『ふくい地域経済研究』第27号、2018年9月</li> </ul>
<p>②著書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本農業新聞編（分担執筆）『協同組合の源流と未来』岩波書店、2017年、p.175～219</li> <li>・戦後日本の食料・農業・農村編集委員会編集委員会編集、高橋信正編集担当（分担執筆）『食料・農業・農村の六次産業化』農林統計協会、2018年、p.377-394</li> <li>・北川太一編著『地域産業の発展と主体形成—食と農、資源を活かす—』放送大学教育振興会、2020年3月発行予定</li> </ul>
<p>③学会報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第68回地域農林経済学会大会・特別セッション「農業協同組合の存在意義と未来像」（2018年10月14日 東京農業大学）</li> </ul>
<p>④その他の公表実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『家の光』連載（協同組合・JA講座ほか）、2008年12月号～（毎月）</li> <li>・『日本農業新聞』（連載：協同組合講座）、2015年4月～（隔週）</li> <li>・『日本農業新聞』（連載：論点）、2017年5月～（年2回）</li> </ul>

## (2)学会活動等

### 学会での座長、査読者など

- ・日本農業経済学会大会個別報告座長（2016年3月、秋田県立大学）
- ・日本協同組合学会大会個別論題報告座長（2016年10月、北海道大学）
- ・地域農林経済学会大会パネルディスカッションコーディネーター（2016年10月、近畿大学）
- ・地域農林経済学会大会個別報告座長（2016年10月、近畿大学）
- ・日本協同組合学会大会個別論題報告座長（2017年9月、徳島大学）
- ・日本協同組合学会大会個別論題報告座長（2018年9月、弘前大学）
- ・学会投稿論文査読者  
日本農業経済学会、地域農林経済学会、日本協同組合学会、日本農業経営学会（随時）
- ・地域農林経済学会・個別報告優秀賞審査委員 2013年度～（うち2014年度～2015年度委員長）

### 学会での役職など

- ・地域公共政策学会 編集委員 2007年4月～、常任理事 2008年4月～2017年12月、  
理事長 2017年12月～
- ・日本協同組合学会 2013年10月～2015年10月 副会長(企画組織・学会賞担当)  
2015年10月～2017年9月 常任理事（総務・学会誌編集委員長）  
2017年9月～2019年9月 副会長(編集・学会誌賞担当)  
2019年9月～ 編集委員
- ・日本農業経済学会 監事 2015年4月～2018年5月
- ・地域農林経済学会 常任理事（企画担当）2012年10月～2016年10月  
常任理事（会計担当）2016年10月～2018年10月  
会長 2018年10月～
- ・中部農業経済学会 理事 2013年7月～2016年7月、副理事長 2016年7月～2017年6月  
理事長 2018年6月～
- ・日本農業経営学会 副会長（学会賞担当）2016年10月～2018年9月

### 学会・分科会の開催運営

- ・常任理事、副会長として、日本協同組合学会、日本農業経営学会、地域農林経済学会などの大会開催に携わった。

## (3)研究会活動等

### ① その他の研究活動参加

- ・ふくい農業問題懇話会（代表）2010年2月～

### ② その活動による成果

## (4)外部資金・競争的資金獲得実績

- ・学内の競争的資金 [C枠（特別研究）]（研究協力者：村井耕二 研究代表）2016年度～2017年度
- ・科学研究費 [基盤研究（B）]（研究分担者：石田正昭 研究代表）2019年度～「戦後農政の展開過程と農業協同組合：全中所蔵資料の検討を通じて」

## 5. 地域・社会貢献

### (1)学外団体

#### ①国・地方公共団体等の委員会・審議会

- ・福井県JA生活指導員会・アドバイザー 2005年度～
- ・福井県JAグループ 非常勤理事研修会講師 2005年度～
- ・越前市食と農の創造審議会・座長 2009年度～
- ・小浜市食育推進会議・委員 2011年度～
- ・美浜町農業基本計画推進委員会・委員長 2015年度～
- ・福井市「人農地プラン」検討委員会・副委員長 2013年度～
- ・大野市和泉地区交付金事業・評価委員会委員 2016年度～2018年度
- ・近畿地区JA職員資格認証委員会・委員長 2005年度～
- ・池田町農村・農業振興プラン検討委員会・委員長（2017年度）

②国・地方公共団体等の調査受託等 ・福井県坂井市ゆりの里公園将来ビジョン策定のための調査受託（2017年度）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加 ・近畿農協研究会運営委員 2005年～ ・社団法人農業開発研修センター・参与 2008年～ ・くらしと協同の研究所・常任理事 2014年～ ・ふくいエコグリーンツーリズムネットワーク監事 2015年度～2017年度
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内の）企業等での活動 ・コープ北陸事業連合・理事 2013年6月～ ・金沢大学研究域附属研究センター中間評価委員会委員 2016年度～ ・金沢大学人間社会研究域附属地域政策研究センターアドバイザー 2016年度～ ・放送大学「地域産業論」教材作成主任講師 2017年度～
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 ・北陸地域政策研究フォーラム運営委員としての企画・開催（2018年3月・福井市、2019年3月・富山市、2019年12月・金沢市）
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 ・福井県立大学短期ビジネス講座「再考：企業による地域社会貢献」（2018年12月）
② 社会人・高校生向けの講座
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） ・（社）家の光協会「家の光」文化賞、同促進賞・選考委員 2011年度～2016年度、2019年度～ ・福井テレビ「座タイムリーふくい」 2017年1月28日、2017年11月26日、2017年12月3日放送、

## 6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） ・経済学部長兼経済・経営学研究科長 2017年度～2018年度
(2)委員会・チーム活動 ・生物資源学部・同研究科 協力教員 2005年度～ ・地域経済研究所兼任教員 2017年度～ ・教育研究委員会委員長 2018年度 ・大学院委員会委員長 2018年度 ・FD 部会部会長 2018年度 ・教職部会 2018年度～
(3)学内行事への参加 ・25周年記念シンポジウム「農業の潜在力で福井新時代を創る」パネリスト 2017年11月30日 ・ライブラリーカフェ 著書紹介「協同組合の源流と未来」講師 2018年6月2日
(4)その他、自発的活動など ・「ふくい協同集会」（主催：「いま『協同』が創る2017 協同集会 in 福井」実行委員会、福井県立大学ほか後援）実行委員長・基調講演者 2017年9月17日